

チョコ増産へ320億円

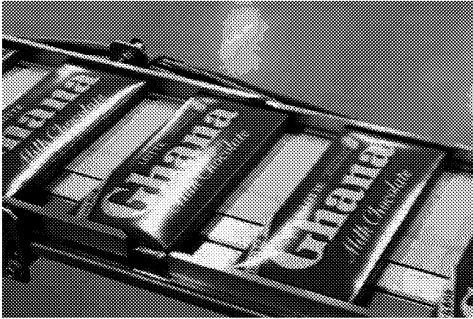
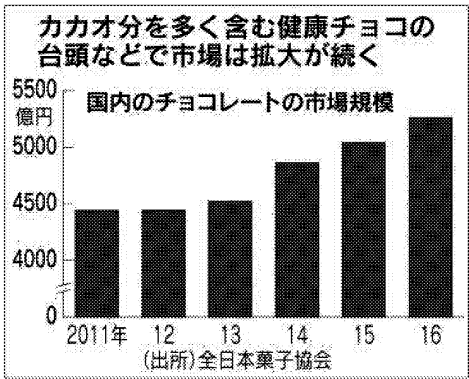
ロッテ、50年ぶり大型投資

ロッテホールディングス（HD）は約320億円を投じてチョコレート
の中間原料を製造する新生産棟を国内に新設する。健康につながる
と訴えるチョコの人気を追い風に、国内市場はこの5年で18%拡大している。今
後も健康志向の高い中高年層を中心に購入が増えるとみて、約50年ぶりの
大型投資に踏み切りチョコ商品の生産能力を4割増強する。

健康志向品の需要増

の大型投資は同工場が稼働した1960年代以来となる。

基幹工場である浦和工場（さいたま市）で20めざす。300億円規模から作るチョコの中間原料



ロッテは国内のチョコ人気を受け増産する（さいたま市の浦和工場）

中間原料は砂糖や水などを加えず、溶かしたカカオ豆の粉末を固めたものを指す。乳酸菌を含むチョコなど近年はヒット商品も出ており、今後の受注の伸びも見据え大型投資を決めた。

料。同工場で生産した中間原料を他の工場に配送し、「ガーナミルクチョコレート」「チョコパイ」といった最終製品にしている。チョコ商品の年間生産能力は約4割増の1100億円分（販売額ベース）にする。

コンプラ委設置

創業家次男起訴受け

ロッテホールディングス（HD）は17日、ガバナンス体制の強化の一環で2016年12月にコンプライアンス委員会を設置したと明らかにした。同社は昨秋に創業家の次男、重光昭夫副会長が韓国検察から背任・横領の罪で在宅起訴された際、同委員会の設置を公表していた。

も16年秋に機能性表示食品のチョコ「LIBER A（リベラ）」の生産量を2倍以上にした。冬場に高級品など購入が増えており需要増に対応する。

ていた。

同社取締役2人と外部の弁護士で構成する。同社は4月にも昭夫副会長が収賄罪で在宅起訴されている。同日、佃孝之社長は「委員会に託す案件がないように経営していきたい」と話した。6月下旬の株主総会で、長男の重光宏之前副会長が提案する自身の経営への復帰に関しては「法令に沿って対応する」とした。